

BCG ワクチンの説明書

結核は結核菌の感染で起こります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。ワクチンを接種することで重症になりやすい乳幼児期の結核を防ぐ効果があります。

接種回数・方法

1回、管針法（スタンプ方式）

対象年齢 生後 1 歳未満の児(標準的な接種期間は、生後 5 か月以上 8 か月未満)

BCG 接種後の経過と副反応

接種後 10 日頃に接種したところに赤いポツポツができ、3 週間後には腫れと周囲の赤みが強くなります。6 週間後にはもっとも強くなり、膿（うみ）がたまることもあります。2 か月を過ぎると反応はおさまってきて、3～4 か月頃にはかさぶたもとれ、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG 接種により抵抗力（免疫力）がついた証拠です。包帯をしたり絆創膏をはったりしないで、そのまま普通に清潔を保って下さい。副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れたり、また化膿して自然にやぶれて膿（うみ）が出る場合があります。その場合には医師にご相談ください。

接種後 1 日～5 日以内に接種した部位に一つ一つの針跡が赤く腫れ、ときに膿（うみ）を持つような反応が起こった場合（コッホ現象）はお子様か結核菌に感染している場合があるのでご連絡ください。

受けることができない人

- 明らかに発熱している人（37.5℃以上の場合）
- 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人
- 結核その他の疾病の予防接種、外傷等によるケロイドの認められる人
- 免疫機能に異常のある疾患を有する者および免疫抑制をきたす治療を受けている人
- 結核の既往のある人
- 上記に掲げる人のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある人

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育について治療や指導を受けている人
- 前に予防接種を受けたとき、2 日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギー症状と思われる異常がみられた人
- 今までにけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人
- 過去に先天性免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全者がいる人
- 結核患者と接触があった人
- 接種部位（両上腕外側部：肩の少し下）がジクジクしている、ステロイド入軟膏を使用している（接種部位以外の使用は問題ありません）人

ワクチン接種後の注意

- 接種後は、接種部位が自然に乾燥（息を吹きかけたりあおんだりしない）するまでの約 20 分間は待合室で待機し、保護者の髪の毛や衣服等、その他の部位と接触しないようにして下さい。
- 接種後翌日までは、過度な運動を控えましょう。
- 接種当日の入浴は問題ありませんが、注射部位を強くこすることは避けてください。